

令和 7 年度 星が丘中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

生徒一人一人の健康でたくましい身体，個性を生かした創造的な知性と技能，豊かな心，正しい社会連帯意識を養い，自己実現を通して持続可能な社会の創り手となることのできる人間を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 友・先生との出会い，打ち込むものとの出会い，感動との出会いなどを大切に，生徒の「自己肯定感」を高め，生徒にとって，かけがえのない中学校生活を謳歌できるよう指導・支援をする。「生徒がいきる」そして，「学校が楽しい」と生徒が真に思える学校づくりを目指す。
- (2) 「生徒がいきる」教育活動を推進するため，学校・保護者・地域の連携を強化し，「教師がいきる」「保護者がいきる」「地域がいきる」学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

今年度のスローガン「新化，深化，そして進化」

教育目標や今年度のスローガンの具現化を図るため，昨年度の振り返りや学校評価・外部評価等を生かし，課題解決を図りながら，より良い学校経営に全校体制で取り組む。

- (1) 確かな学力の定着
 - ・ 学習指導要領に基づく「本時のねらい」を明確に示した授業の展開，ねらいに即した振り返りの実践，自らの考えを進んで表出する活動の推進，個別最適な学び，そして，宇都宮モデル（はっきり，じっくり，すっきり）の各過程の指導の資質向上を図ることにより確かな学力の定着を図る。
 - ・ 個に応じた課題の設定と多様な学習課題の提示，課題解決的な学習や探究活動の充実，読書活動の充実，A Iドリルの活用等を通して，主体的に学び，考える生徒を育成する。
 - ・ 公開授業・校内研修等の充実，各種調査結果の分析，問題演習の時間の確保，宿題の出し方の工夫を通じた学習指導法の工夫改善を図る。
- (2) 心の教育の推進（豊かな人間性の育成）
 - ・ 考え・議論させる道徳の授業，読書活動，あいさつ運動，人権教育，国際理解教育，福祉教育等の充実を図り，教育活動全体を通して，やさしさと思いやりにあふれた心の教育を推進する。
 - ・ 学校行事，生徒会活動，学級活動，部活動等における主体的な活動を通して，互いに高め合い，より良い集団づくりを推進する。
- (3) 生徒指導の充実
 - ・ 生徒とのコミュニケーションを重視し，信頼関係の構築に努める。
 - ・ 生徒が，集団の一員であることに誇りをもち，集団に役立っていたり，必要とされたりすることに喜びをもてる導の充実に努める。
 - ・ 規範意識の高い学級経営を推進し，差別，偏見，いじめ等を許さない安全・安心な学校づくりに努める。
 - ・ 生徒自身に考えさせる生徒指導をさらに充実させ，自主・自立の精神を培い，自己肯定感を高めるとともに，自己指導能力を身につけさせる。
 - ・ 問題行動の未然防止，早期発見・解決に向けて，観察力・指導力を高めるとともに，家庭や他関係機関との連携を図りながら，組織的な取組を推進する。
 - ・ 集団づくりと授業づくりを相互に関連させ「学業指導」の充実を図る。
 - ・ 帰属意識を高める学級経営，「できた」「わかった」という喜びや達成感が味わえる授業の工夫を通して，不登校の未然防止を図る。
 - ・ 情報モラル教育及びデジタル・シチズンシップ教育の更なる充実を図り，SNSトラブル等の未然防止を図る。
- (4) 健康・体力の向上
 - ・ 自己の健康，体力の状況を理解し，進んでその向上に励む生徒を育成する。
 - ・ 新体力テストの結果を活用し，課題を明確にとらえてその解決を図るとともに，進んで運動に取り組む態度を育成する。
 - ・ 各種検診の事後処理（未治療者の個別指導，家庭への啓発等）の徹底を図る。
 - ・ 感染症対策の徹底など，健康を管理する能力の育成を図る。
 - ・ 心身の健康問題の早期発見・対応に努める。
 - ・ 専門の知識や技能をもつ人材の活用や家庭・地域等における啓発を通して，保健教育の推進を図る。
 - ・ おにぎりの日，お弁当の日の取組等を通して，食への関心を持たせ，健康的な食事の在り方を自ら考え，実践できる生徒育成に向けた指導の充実を図る。
 - ・ 食育の充実と心身ともに健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
 - ・ 交通ルール遵守を及び安全・安心の確保に向けた指導の充実を図る。
- (5) 特別支援教育と教育相談の充実
 - ・ 生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう，校内特別支援委員会・教育相談部会等の機能を生かして組織的に取り組む。
 - ・ 不登校の防止や解消，生徒一人一人の悩みの解消と明るい学校生活を実現するために，教育相談の意図的・計画的な実施と教職員のスキルの向上を図る。
 - ・ S C，M S との連携の更なる充実を図るとともに，関係機関との連携も強化し，一人一人に応じた対応に努める。

- (6) キャリア教育の充実
 - ・ キャリアパスポートの活用を通して、将来の生き方を考え適切な進路を選択する能力を育てる。
 - ・ 社会体験学習等を充実させ、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、生徒が自己の適性を探求し、職業を通して社会に貢献しようとする意欲を培う。
- (7) 家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの充実
 - ・ 家庭や地域社会との連携と、地域の教育力を生かした地域と共にある学校づくりの充実に努める。
- (8) 教職員の使命感と資質の向上、働き方の意識向上
 - ・ 時代や生徒、保護者のニーズに応えるため、協働体制のもとに、各自の強みを生かしながら資質の向上に努める。
 - ・ 生徒と一緒に生きていく対等なパートナーであるという視点をもちながら指導にあたることを通して、教職員の専門性を高める。
 - ・ 生徒の変化に敏感に気づけるよう、観察力を高める。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】

未来を見つめ、主体的に生き抜く力の育成～認め合い、学び合い、高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

4 教育課程編成の方針

学校経営計画より今年度の重点目標「生徒の自己肯定感を高める、創造的な学校経営の推進」に則り、教育課程のスリム化・重点化を図って、確実な授業時数と指導に関する研修の機会を確保し、生徒と教職員が見通しとゆとりを持って生活や業務にあたれるよう教育課程を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 生徒一人一人が個性や能力を発揮し、切磋琢磨しながら、常に進化を目指す集団の育成
- 【重点項目】**

 - ① 集団の一員であることに誇りをもてるような活動の推進（帰属意識の向上、居心地の良さ）
 - ② 「できた」「わかった」という喜びや達成感が味わえる授業の工夫
(自信をもたせる授業、指導方法の継続的な工夫・改善)
 - ③ 生活や対人関係におけるルールが共有された規律ある集団の育成（安全・安心な学校づくり、不登校の未然防止）
 - ④ 生徒は一緒に生きていく対等なパートナーであるという視点に立った指導の推進
(教職員 研修の充実、指導力・観察力の向上)
- (2) 学習指導
 - 本時のねらいを共有し、意欲をもって学ぶことのできる生徒の育成
 - ・ 主体的に学び自らの考えを進んで表出できる生徒の育成
 - (3) 生徒指導
 - ・ 集団に役立っていたり、必要とされたりすることに喜びをもてる生徒の育成
 - 自己肯定感を高め、自己指導能力を身につけられる生徒の育成
 - (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
 - 自己の健康、体力の状況を理解し、進んでその向上に励む生徒の育成
 - 食への関心を持ち、健康的な食事の在り方を自ら考え、実践できる生徒の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が主体的に学習に取り組み、深い学びにつながるよう、学習のめあての提示、振り返りの実施 ・ 教材・教具の工夫、生徒用タブレットの有効活用 ・ ICT 支援員による授業案の提示 	B	【達成状況】 生徒 92.1%、教職員 97.7%、保護者 88.7%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 対話的な学習活動やタブレットを用いた協働的な学習などを取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組めるような環境づくりに努める。

1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・他との関わりを多面的・多角的に考える授業の実践 ・「思いやり」を題材にした道徳授業の実践 ・日常生活での思いやりの行動の推奨 	B 【達成状況】 生徒 94.4%, 教職員 93.2%, 保護者 92.6%, 地域住民 100.0%とすべて 90%以上を達成している。 【次年度の方針】 道徳科の授業での各自の考えを議論する場面において、思いやりについて深く考えさせることを継続して指導していく。また、日頃の学校生活においても、思いやりのある言動がとれるよう指導支援に努める。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じたキャリア教育の推進 ・「できた」「わかった」という喜びや達成感が味わえるような授業の工夫 ・目標達成に向けたプロセスにおけるPDCAサイクルの活用 ・成長の可視化と達成感の共有 	B 【達成状況】 生徒 86.8%, 教職員 84.1%, 保護者 83.6%とすべて 80%以上を達成している。「できた」「わかった」という喜びや達成感が味わえるよう授業改善を行った成果が表れている。 【次年度の方針】 なぜ粘り強く取り組む必要があるのか、という「意味付け」を強めることで、モチベーションの持続を図っていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科や保健体育科での発達段階に応じた指導 ・給食指導、生徒会活動、外部講師を活用した健康教育の実践 ・各種たよりを通した生徒・保護者への啓発 ・交通安全教室、避難訓練、登下校指導の実施 	B 【達成状況】 生徒 90.9%, 教職員 88.6%, 保護者 90.4%, 地域住民 100.0%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 教科指導や給食指導、外部講師による講話、生徒会活動などを通じて健康教育を実施し、実生活で健康や安全に関する適切な行動がとれる力を育む。また、交通安全教室や避難訓練、日々の安全教育を通じて、安全意識の向上に努める。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりにとって、居がいのある学級経営の実践 ・学校行事や学級活動における役割分担など、一人一人の自己有用感につなげる活動の実践 ・些細なことを含めた生徒の成長に対する称賛 	B 【達成状況】 生徒 91.0%, 教職員 95.5%と達成できている。 【次年度の方針】 生徒同士で互いを認め合えるような関係づくりを、学級・学年で継続して支援をしていく。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力を高める学習活動を多く取り入れた英語の授業の実践 ・ALTとの積極的な交流の推進 	B 【達成状況】 生徒 79.3%, 教職員 97.7%である。生徒は英語科の授業でのスピーキング活動やALTとの自由な対話を通して、積極的に交流している。 【次年度の方針】 生徒はある程度の英会話ができているが自信がない。英語科の授業において、ALTのさらなる活用とコミュニケーション能力をさらに高める学習活動を継続し、英会話に対する自信を高められるよう指導していく。
	A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	<ul style="list-style-type: none"> ・「宇都宮学」の学習を中心とし、総合的な学習の時間の指導の充実 ・地域との連携と、その教育力の活用 	B 【達成状況】 生徒 83.3%, 教職員 79.5%, 保護者 82.7%であった。教職員は 80%以上に達していない。 【次年度の方針】 「宇都宮学」を中心とした、総合的な学習の時間を通して、生徒が郷土への愛情と誇りをさらにもてるよう継続して指導していく。

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の積極的な活用（授業・学校行事・専門委員会等） ・タブレット端末の効果的な活用例の共有 ・授業での図書室の活用 ・図書選定委員会を開催しての計画的な図書の整備 ・必要な資料等の市立図書館や地域学校園内の学校からの借用 	<p>【達成状況】 生徒 78.3%, 教職員 95.5%, 保護者 78.2%であった。 【次年度の方針】 B タブレットの使用は日常的になっている。図書の利用率も上げていくため、授業での活用だけでなく、休み時間に利用したくなるような取組を考えて実践する。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間における「持続可能な社会」についての学びの継続 ・「持続可能な社会」につながる活動を意識させての委員会活動の実践 	<p>【達成状況】 生徒 76.2%, 教職員 65.9%と両者とも80%以上には届かなかった。 【次年度の方針】 B 総合的な学習の時間における活動の充実を図るとともに、生徒会の活動においても「持続可能な社会」の実現につながる活動を意識させて実践していく。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な生徒の個別の支援計画の作成と活用 ・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の確立（かがやきルーム、ステップアップルーム等の特別支援資源の有効活用） ・教育相談部会、校内支援委員会等における情報の共有化と迅速な対応 ・本人・保護者の要望への対応や学校生活に必要な支援の充実 	<p>【達成状況】 教職員 100.0%であり、達成できている。 【次年度の方針】 B かがやきルームのニーズが増えてきている。授業者とかがやき担当職員との連携が取れているので、継続したい。ステップアップルームを活用している生徒の情報共有を密に行う。個別の支援計画の作成は大変だが、有効活用できるようにする。</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会を中心とした情報交換と迅速な対応 ・いじめを扱った題材や人権に配慮した道徳の授業の充実 ・「学校生活アンケート」（年間4回）による現状把握といじめ早期発見、早期対応 	<p>【達成状況】 生徒 96.8%, 教職員 100.0%, 保護者 84.8%, 地域住民 100.0%であり、すべて80%以上と達成できている。 【次年度の方針】 B 道徳の授業や様々な活動を通して、思いやりの心をもつことの大切さを学ばせる。学校生活アンケートについての情報共有を徹底する。生徒指導だより等を活用し、保護者、地域に取組の発信を行うことを継続して行う。</p>
<p>3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりにとって、居がいのある学級経営の実践 ・宮っ子ダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとなどの把握 ・教育相談部会における情報の共有化、支援 ・新たな不登校を生まないための未然防止と「ステップアップルーム」での登校支援の充実 	<p>【達成状況】 生徒 95.2%, 教職員 100.0%, 保護者 92.9%と達成できている。 【次年度の方針】 B ステップアップルームの本来の目的や手続きの流れを見直し、教職員の共通認識の下で慎重に運用をしていく。教育相談部会で情報共有を密に行う。</p>
<p>3- (3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が活躍できる場を設定するとともに、生徒の自発的・自治的活動を促す学級活動の実践 ・宮っ子ダイアリーや教育相談週間の活用による、生徒の悩みごとなどの把握と適切な対応 ・外国人生徒の日本語の力に応じた日本語指導の実践 ・生徒は一緒に生きていく対等なパートナーであるという視点に立った指導の推進 	<p>【達成状況】 生徒 96.1%, 教職員 97.7%, 保護者 92.3%, 地域住民 100.0%と、すべて80%以上を達成できている。「生徒は一緒に生きていく対等なパートナーである」という視点に立った指導が定着してきたといえる。 【次年度の方針】 A 生徒の自発的・自治的活動をさらに発展させ、学校内の課題を生徒自身が解決する「プロジェクト型」の活動を増やしながら、「自治」の質の向上と社会への接続を目指す。</p>
<p>3- (4) 多様な教育 的ニーズへの 対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が活躍できる場を設定するとともに、生徒の自発的・自治的活動を促す学級活動の実践 ・宮っ子ダイアリーや教育相談週間の活用による、生徒の悩みごとなどの把握と適切な対応 ・外国人生徒の日本語の力に応じた日本語指導の実践 ・生徒は一緒に生きていく対等なパートナーであるという視点に立った指導の推進 	<p>【達成状況】 生徒 96.1%, 教職員 97.7%, 保護者 92.3%, 地域住民 100.0%と、すべて80%以上を達成できている。「生徒は一緒に生きていく対等なパートナーである」という視点に立った指導が定着してきたといえる。 【次年度の方針】 A 生徒の自発的・自治的活動をさらに発展させ、学校内の課題を生徒自身が解決する「プロジェクト型」の活動を増やしながら、「自治」の質の向上と社会への接続を目指す。</p>

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・ねらいを明確に、振り返りを確実に 行う「分かる授業」の実践 ・「ねらい」と「振り返り」の黒板への 掲示 ・授業の中で生徒が達成感を味わい、 自己肯定感を高められる言葉かけ の充実 ・ICTの効果的な活用 ・数学科や英語科におけるチーム ティーチングや習熟度に応じたき め細やかな指導の充実	【達成状況】 生徒94.5%、教職員97.7%、保護者 81.6%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 ねらいを明確にした授業を実践し、分 かる授業に努め、生徒に達成感を味わ わせることで、自己肯定感を高めてい く。ICTの効果的な活用を図り、数学科や 英語科では、習熟度に応じたきめ細や かな指導を充実させる。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力を して業務に取り組んでい る。 【数値指標】 肯定的回答80%	・「チーム星が丘」の力を最大限に生 かすための、多様なスタッフとの連 携の強化 ・全教職員の共通理解に基づく組織 的な対応	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合、100.0%と 良好である。教職員が同一方向を向き、 連携・協力を図りながら取り組んでいる 成果が表れている。 【次年度の方針】 100%の肯定感、現在の職員の熱意 や相性に支えられている可能性がある。 異動などで職員が入れ替わっても質を 維持できる「持続可能なシステム」を強 化していく。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 肯定的回答80%	・教育の本質を見据えた業務の精選・ 見直し・最適化 ・出前講座や体験活動の精選・見直し ・教職員の意識改革 ・部活動基本方針に基づく効率的な 活動と休業日の設定と、地域移行に 向けたビジョンの共有 ・勤務時間管理による長時間勤務の 改善とワークライフバランスの見 直しの推進	【達成状況】 教職員の肯定的回答割合は81.8%で あり、概ね達成できている。 【次年度の方針】 教職員一人一人が勤務時間の管理に 努めるとともに、教育課程編成の工夫や 部活動指導環境の改善など組織として 業務の効率化に注力する。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・地域学校園の全体研修や各部会・分 科会の充実 ・小中一貫カリキュラムに関する取 組の充実 ・小中合同あいさつ運動の充実 ・地域学校園の取組を全校生徒へ知 らせる工夫	【達成状況】 生徒83.6%、教職員84.1%、保護者 88.1%、地域住民100.0%と概ね達成 できている。 【次年度の方針】 一つ一つの取組について見直しを行 いながら精選を行うと同時に質を高め、 持続可能な形へと新化させていく。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・地域協議会との連携の強化 ・学校ボランティア、地域の学習資 源、地域人材を活用した講演会等の 活動の充実 ・地域・企業と連携した「地域の方々・ 先輩・専門的な知識を持つ方に学 ぶ」授業の実施 ・各種便りや学校HPによる積極的 な情報発信	【達成状況】 生徒82.2%、教職員100.0%、保護者 88.4%、地域住民100.0%とすべて80% 以上を達成している。各種便りや学校HP による積極的な情報発信の成果が表れ ているといえる。 【次年度の方針】 生徒による「発信」と「地域への還元」 に重点を置くことで、生徒が地域社会に 貢献する「当事者意識」を育てていく。
5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・地域協議会との連携の強化 ・学校ボランティア、地域の学習資 源、地域人材を活用した講演会等の 活動の充実 ・地域・企業と連携した「地域の方々・ 先輩・専門的な知識を持つ方に学 ぶ」授業の実施 ・各種便りや学校HPによる積極的 な情報発信	【達成状況】 生徒82.2%、教職員100.0%、保護者 88.4%、地域住民100.0%とすべて80% 以上を達成している。各種便りや学校HP による積極的な情報発信の成果が表れ ているといえる。 【次年度の方針】 生徒による「発信」と「地域への還元」 に重点を置くことで、生徒が地域社会に 貢献する「当事者意識」を育てていく。
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】 肯定的回答80%	・日常的な点検と月1回の安全点検 の実施 ・自然災害時等の臨時の安全点検の 実施 ・各種業者による施設点検 ・修繕箇所への迅速な対応 ・熱中症指数計の設置と活用 ・AED設置場所の周知	【達成状況】 教職員100.0%、保護者93.6%、地域 住民92.3%と達成できている。 【次年度の方針】 日常点検や安全点検、自然災害時の臨 時点検を継続し、迅速な修繕対応を強化 する。また、情報発信を充実させ、AED や熱中症指数計の設置場所を周知し、地 域や保護者との連携を一層深めて、より 安全な環境づくりを推進する。

<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT支援員による生徒用タブレットの診断 ICT支援員と連携した教材の開発や情報交換 ICT機器の効果的な活用の仕方についての情報共有 デジタル採点を活用し、正答率の分析による教科指導への利用 生成AIを活用した業務の効率化 	<p>【達成状況】 教職員 97.7%で数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ICT支援員のさらなる活用を図り、教職員の支援だけでなく、授業中の生徒への支援も行い、授業をさらに充実させる。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心としたあいさつ運動の充実 教員の率先垂範によるあいさつの励行 	<p>【達成状況】 生徒 97.1%、教職員 88.6%、保護者 88.2%、地域住民 100.0%と数値指標を達成している。 【次年度の方針】 教員が率先垂範してあいさつをするとともに、引き続きあいさつ運動の効果的なあり方について生徒会主体で考えていく。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の共通理解のもとでの継続指導 生徒自らが考えるマナーアップの方策を手助けする体制の整備 5分前行動・2分前着席の徹底 	<p>【達成状況】 生徒 97.4%、教職員 90.9%、保護者 89.8%、地域住民 92.3%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 生徒自身が考えた「私たちの約束」に基づき、教職員が共通理解をもって、指導・支援にあたる。5分前行動・2分前着席についても、全学年で足並みを揃えた指導を行う。令和7年度に作成した「きまりやマナーについて」考える授業を、今後も継続して行っていく。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B3 生徒は、授業や部活動などで一人一人が課題をもって体力の向上に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育の授業や部活動において、特に持久力の育成を意識した授業の実践 ICT活用による問題解決学習と振り返り時間の確保 	<p>【達成状況】 生徒 92.3%、教職員 97.7%、保護者 91.0%、地域住民 100.0%と概ね達成できている。 【次年度の方針】 保健体育科の授業や部活動指導においてICTを積極的に活用し、動きを視覚的に把握させることで、自己の課題を明確化し、問題解決能力を育成して体力の向上につなげる。</p>
	<p>B4 生徒は、学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考えを発表している。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間のねらいの提示 生徒に目標や見通しを持たせた授業の展開 生徒の発言を大切に扱うとともに、ましがいを恐れずに発言できる学級の雰囲気作り タブレット端末を活用した意見交換等による自分の考えを表出する活動の実施 	<p>【達成状況】 生徒 73.5%、教職員 93.2%、保護者 77.7%、地域住民 100.0%であった。生徒、保護者が、80%を下回っている。 【次年度の方針】 生徒自身が見通しをもって授業に取り組めるようにねらいの提示を工夫する。また、日頃から生徒の発言を大切に扱うとともに、発言しやすい学級の雰囲気作りに努める。授業等でタブレットを活用し、意見交換や自分の考えを表出する活動を充実させる。</p>
	<p>B5 教職員は、あいさつや対応が丁寧である。 【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員自らの先行あいさつの実施 相手の立場や気持ちになつての丁寧な対応（人権を意識した行動・発言） 教職員同士の連携の深化 	<p>【達成状況】 生徒 93.9%、教職員 97.7%、保護者 91.6%、地域住民 100.0%と達成できている。 【次年度の方針】 教職員一人では対応するのではなく、チームで対応し、迅速かつ丁寧な対応を心掛けていく。 教職員一人一人が保護者、来校者へ積極的にあいさつや声掛けをし、学校として温かく迎える雰囲気をつくる。</p>

<p>B6 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識を高めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会等での情報交換等による生徒の的確な把握と早期対応 ・部会記録を回覧するなど共通理解を図ることによる全校体制での公平かつ一貫した生徒指導の実践 	<p>【達成状況】 生徒 93.7%, 教職員 95.5%, 保護者 88.6%, 地域住民 100.0%と達成できている。</p> <p>【次年度の方針】 生徒の状況についての的確な把握と早期対応に努めるとともに、引き続き組織で対応することを心がける。</p>
<p>B7 生徒は自分の良さに気づき、自己肯定感をもって学校生活を送っている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒相互が学び合い認め合う場の設定と、生徒の自己肯定感を高める指導力の向上 ・生徒が自己肯定感を高められる言葉かけの充実 	<p>【達成状況】 生徒 79.6%, 教職員 90.9%, 保護者 88.0%, 地域住民 100.0%と生徒の肯定的回答がわずかに達していない。</p> <p>【次年度の方針】 学校生活全般において、生徒が互いの良さを認め合えるような雰囲気づくりに努める。自己肯定感を高めていけるよう、活躍の場を多く設けるように努める。</p>
<p>B8 生徒は、SDGsに係る取組を実践している。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間での学年ごとの取組の実践 ・生徒会各委員会でのSDGsに関わる取組の実践及び校内掲示の充実。 	<p>【達成状況】 生徒 68.4%, 教職員 75.0%, 保護者 74.1%, 地域住民 100.0%と、生徒、教職員、保護者が80%を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 総合的な学習の時間を活用し、知る・学ぶ・活用する取組を継続して行う。また、生徒会各委員会でSDGsに関わる活動に取り組んだり、校内掲示を充実させたりなど、生徒が自分にできることを考えられるように指導する。</p>
<p>B9 生徒は、交通ルールを守り、登下校時の安全に努めている。</p> <p>【数値指標】 肯定的回答80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による月1回の登校指導 ・毎週水曜日の一斉下校時や部活動終了時の下校指導 ・交通安全教室の実施 ・生活委員会による安全な下校の呼びかけ 	<p>【達成状況】 生徒 96.0%, 教職員 65.9%, 保護者 85.6%, 地域住民 76.9%と生徒の達成状況が、教職員から見て実態に見合っていないと思われる結果となった。</p> <p>【次年度の方針】 交通ルールを守るよう指導を継続するとともに地域の協力を得ながら登下校時の安全確保に努めていく。自転車通学者の集会を定期的に関き、交通ルールを遵守するよう継続して指導する。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・評価に関する数値指標は29項目中23項目が達成されており、全体として「おおむね良好」な状況である。
- ・今年度のスローガン「新化、深化、そして進化」のもと、生徒会を中心とした主体的な活動が展開された結果、「A13 学校の雰囲気」や「A5 自分のよさや成長の実感」において90%を超える高い評価を得ており、生徒の自己肯定感は着実に高まっている。
- ・「A1 主体的な学習への取り組み」「B4 学習のねらいの共有と表現力の向上」については、生徒の肯定的回答が昨年度から4.2ポイント上昇(92.1%)しており、授業での「ねらい」の共有や振り返りの徹底により、自ら課題を見つけ、意欲的に考えを发表しようとする姿勢が育ってきている。
- ・昨年度の課題であった「A3 目標に向かって粘り強く取り組む」は6.0ポイント上昇(86.8%)、「A19 安全に配慮した環境づくり」は6.3ポイント上昇(100%)と、重点目標として取り組んだ項目で5ポイント以上の改善が見られた。
- 小中一貫教育については、「A17 地域学校園の取組」の生徒の肯定的回答が前年度より0.8ポイント上昇の83.6%となり活動が定着しつつある。また「A7 宇都宮の良さ」については、5.3ポイント上昇し83.3%と目標値を達成した。今後も、総合的な学習の時間を通して、生徒が郷土愛をもてるよう指導していく。
- ・「A9 持続可能な社会への関心」や「B8 SDGsの実践」は、昨年度に続き目標値を下回っており、教育活動全体を通じた意識付けが今後も必要である。
- ・「B9 交通ルール」については、生徒の自己評価(96.0%)に対し、教職員評価(65.9%)が市平均(87.4%)を大きく下回るなど乖離が見られる。実態に即した安全意識を育むための指導の工夫が求められる。

7 学校関係者評価

- ・登下校時における自転車の左側通行とヘルメット着用の徹底を求める。特にヘルメットは、努力義務ではあるが全員が必ず着用するような工夫が必要であり、休日についても着用を推奨したい。また、夕方や狭い道路において、複数人での並列歩行（2列歩行等）が見受けられ危険であるため、実態に即した安全指導を強化してほしい。
- ・SDGsについては、生徒が日常的に無意識で行っている活動も多いため、それらを可視化することでさらに高い評価につながるのではないかと。宇都宮大学等との連携によるカードゲームや、自分たちで制作するカルタなどの体験的な手法を取り入れ、より親しみながら実践できる工夫を期待する。
- ・地域には歴史や文化について深い知見を持つ人材が数多くいるため、外部講師等として積極的に活用し、学びを深めてほしい。
- ・「学校にきたい」生徒が無理なく通える環境づくりとともに、不登校傾向にある生徒に対しても登校を強要せず、ICT等の活用により着実な学習機会を確保できるよう、引き続き一人一人に寄り添った対応をお願いしたい。
- ・学校内の活動が評価書を通して大変よくまとめられている。地域協議会としても、子どもたちの交通環境や学校環境の整備において、今後も一層協力していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 今年度の自己評価および学校関係者評価を踏まえ、本校の教育活動や評価結果の公表に対し、一定の信頼をいただいた。評価指標は29項目中23項目で目標を達成しており、全体として「おおむね良好」な状況である。特に今年度のスローガン「新化、深化、そして進化」のもと、生徒会を中心とした主体的な活動が展開された結果、「A13 学校の雰囲気」や「A5 自分のよさや成長の実感」において90%を超える高い評価を得るなど、生徒の自己肯定感は着実に高まっている。また、重点目標とした「A3 目標に向かって粘り強く取り組む」や「A19 安全に配慮した環境づくり」の数値向上、および「A1 主体的な学習への取り組み」の改善は大きな成果である。一方で、依然として課題であるSDGsの実践や、認識に乖離が見られた交通安全等について建設的な提言をいただいたことを真摯に受け止め、次年度は以下の取組を重点的に推進する。
- ・「B2 きまりやマナー」や「B9 交通ルール」において、教職員評価と生徒の自己評価に乖離が見られる実態を踏まえ、登下校時の自転車左側通行やヘルメット着用（休日含む）を徹底する。努力義務であるヘルメットを全員が着用するための啓発を行うとともに、地域住民から指摘のあった下校時の並列歩行等の危険箇所について、地域協議会と連携し、生徒の安全意識の向上と環境整備を推進する。
 - ・目標値を下回った「A9 持続可能な社会への関心」や「B8 SDGsの実践」を改善するため、生徒が日常的に無意識で行っている貢献活動を可視化し、肯定的に評価する。提言のあった大学・市との連携によるカードゲームの活用やカルタ制作など、生徒が楽しみながら自分事として捉えられる体験的な学習機会を創出し、自己肯定感の向上へと繋げる。
- 「A7 宇都宮の良さ」の数値をさらに伸ばし、郷土愛を確かなものにするため、地域に精通した人材を外部講師として積極的に招請する。地域の歴史や文化を直接学ぶ機会を充実させることで、地域住民との交流を深め、郷土への誇りと社会連帯意識を育む取組を発展させる。
- ・「A12 不登校を生まない学級経営」を基盤としつつ、不登校傾向にある生徒に対しても登校を強要することなく、ICT等の活用により着実な学習機会を確保する。一人一人の状況に寄り添い、「学校にきたい」生徒が無理なく通える環境づくりと、多様な学びの保障を組織的に継続する。
- 「A17 地域学校園の取組」を全校生徒や地域へより効果的に周知するため、情報発信の手法を工夫する。地域協議会による学校環境づくりへの協力を仰ぎながら、学校・家庭・地域が一体となった「地域と共にある学校づくり」を具現化する。